

# 竜の子新聞

特 別 号

市政報告

発行 あらき竜二

倉敷市日吉町 476-4



謹賀新年



「ご挨拶」

倉敷市議会 議長 あらき 竜二  
旧年中はご厚情を賜り誠にありがとうございました。ご挨拶

毎年、発行させていただいている「竜の子新聞」おかげさまで、19号を迎えます。

昨年、発行した「竜の子新聞」の企画「あらき竜二ってどんな人？」ですが、思った以上の反響をいただきました。ありがとうございます。19号も是非、同じ企画でのお声も

多く、そのお声に甘えて「あらき竜二ってどんな人？パート2」を掲載させていただく運びとなりました。

ご寄贈文を緊張しながら読ませていただき、皆さんの温かく、激励の言葉に新人の頃を思い出しました。

皆様もご一読いただければ幸いです。今年は私にとりまして勝負の年と考えています。

倉敷市議会議長となり、仕事の幅が大きく広がりました。

それらを市政にどのように活かしていくのか。そのためにしっかりと考えること、そして実践するために皆さんとのネットワークを築くことが必要だと考えています。

また、幅広い世代にもっと関心を持っていただけるような開かれた議会運営への取り組みも推進したいと思えます。

一つ一つに丁寧に真摯に向き合っていきたいと思っています。

どうか皆様の厚いご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

岡山県議会  
議長 遠藤 康洋

荒木竜二先生は、倉敷駅北を地盤とした地域活動に尽力され、平成21年の初当選以来、5期にわたって市議を務められ、親子二代で市議会議長を務められるなど、市政の課題解決に向け、全力投球の日々であります。

「災害や不景気に負けない市政」の強い思いから、特に平成30年7月豪雨災害の教訓を活かした防災減災対策の推進を軸に、地域の防災力強化に取り組んでおられます。また、会社経営者の顔もあり、こうした経験が市政のコスト意識や経済・産業振興の活性化推進にも繋がっていると考えます。

大変忙しくされる中でも、「自分の家族の幸福を、そのまま倉敷市民全体の幸福につなげるんだ」という地域貢献への信念も持ち合せておられ、自身の家族をとて大切にしておられます。

このように、荒木竜二先生の倉敷市政にかける一所懸命な情熱、その実績は目を見張るものがあります。これから、市民と共に歩みながら市政に邁進されることを期待しています。

岡山県議会議員  
佐古 一太

荒木先生は、人生と政治家の先輩として頼りになる方です。最初にお会いした時は、背は高いし、体はゴツイし、握手をすると餃子のように包まれる手の大きさに、後ずさりしそうなになった感覚を覚えていました。

私の議員生活が始まった時、地域のイベントや会議、役員の方など分らない中で、常に頼ったのは荒木先生です。特に万寿学区では「竜ちゃん」の愛称で、地域で何かあれば必ず「竜ちゃん」がいいます。私も「かずちゃん」と呼ばれるよう頑張っていますが、今のところ失敗しています。そんな荒木先生が、地域の事を丁寧に教えてくださり、寄り添っていただいたことに今でも感謝をしています。そして、何より私が尊敬するのは荒木先生の「実践力」です。少林寺拳法を教える、狩猟をする、何故かハチも育てる！挙げればきりがありません！口だけでなく、自分の時間と体を使って実践する姿勢を私もお手本に、今後も荒木先生と一緒に活動していきたいと思っています。



酒津のホタルを

親しむ会  
会長 武内 立爾

2007 年 荒木さんがまだ議員にな

る前、ホタルの会立ち上げの時からのご縁ですから 18 年のお付き合いになります。とにかく荒木さんの周りには人が集まります。話も面白いし実行力もある、役所との関係も良い、かと言って友人知人の頼みなら何でもと言うわけではなく酒津をホタル公園にするプランの時は会の覚悟の見極めと深夜配水池に入って自身でホタルの産卵を確認するまでゴーサインを出さない 10 年先を見据える慎重さがある。地域のことで言えば、ホタルの会をきっかけにお宮、お寺、千歳楽保存会、自衛消防団等にはいてももらわないと困る存在になり県や国とのパイプも、もたらしにくれました。最初にも書きました、が、とにかく荒木さんの魅力はその人となりです。真備の大被害の時は最前線のサテライトで場所を確保し国から大型資材を調達する傍ら毎日便所掃除をする、張り詰めた現場で全国からやってくるボランティアの手練れと対等に渡り合う。まあその度量というか器と

議長職は、激務、健康に留意して下さい。ホタルとか地域とか抜きにして僕個人にとっても荒木さんと友人になれた事は人生の財産、感謝しかありません。

あらかき竜二さんと最初に一緒にやった活動は小学生相撲大会に阿智神社の土俵で学区代表としての出場でした。体格の良かった彼は 5 年生で大将を務めていました。当時から物怖じせず大きな相手にも猪突猛進に向かって行き、ケガをする事もありました。

高校までは同じ学び舎で、やっぱり後輩として見ていたので、親父の後継として市議への立候補を聞いた時には「大丈夫かあ？」と思いました。

彼は親父の仕事を見ていて「自分も地域の人に喜んで貰える仕事をした」という思いを聞き、後援会会長を受けました。

議員に選んで頂いてからは、みんなに喜んで貰うために、地域や倉敷をもっと良くしたいと云う思いは、猪突猛進から様々な目標に向かって果敢に挑む「勇往慢心」へと変わり、五期目の当選をさせて頂きました。

あらかき竜二後援会  
会長 秋岡 正之

議長に選任頂いてからは未知の役割を担う中で、様々なことを果敢に吸収し少し慎重にもなった様子ですがこれから行動で示す姿を貫いてくれることを期待しています。



息子 荒木 宥人

いつも父がお世話になっております。息子の宥人です。昨年、掲載させて頂いた企画を今年も取り上げていただくことになりました。良いチャンスだと思い、取材に挑戦させていただきました。つたない文章ではありますが、最後までお付き合いください。

まず、父の高校生時代のことです。父は倉敷工業高校電気科卒業で、太い指で今でも、電気関係の配線や細かい作業が得意です。父のことを皆さんから聞きすると口をそろえたように「やんちゃ」というワードが出ます。去年、亡くなった祖父も「竜ちゃんは高校の時はやんちゃしとったんや!」とよく当時のことを懐かしみながら楽しそうに話していました。具体的に何をしていたのかぜひ聞きたいところですが、皆さんニヤーつと笑うばかりで教えてくれません。非常に残念です。そのやんちゃで破天荒だった父が

倉敷市議会議員選挙に立候補しよう、と、決心したきっかけはなんだったのか。父は、平成 21 年に倉敷市議会議員に初当選しました。当時 44 歳です。その時、祖父は自身の市議会議員の集大成として、もう 1 期と、考えていたのですが、祖母が「余力があるうちに竜ちゃんに譲ってください」と、言ったそうです。それ以来、祖父は父のブレーンとなり、地元のためにという魂は、父竜二に受け継がれています。

父が考える政治信念とは何なのか。父は考えた末に「支えること」と答えました。その信念の元になっっているのは、地元愛と東日本大震災のボランティア活動だったそうです。被災地で支えあつて復興していく様を見て、市政の働きを感じ、市政が暮らしにつながることを実感して体が震え、気合が入ったそうです。色々な方々の出会いや体験を経て、それらが父を支えて支えられているのだと思えました。こんな父ですが、私と共に父を見守っていただけたらと思います。今後ともよろしくお願